

小学校音楽科における器楽学習の問題点

—鍵盤ハーモニカとリコーダー学習を中心に—

青山 夕夏・土居 祐二郎*・角田 佳奈**

(音楽教育講座) (高松市立国分寺南部小学校) (大学院教育学研究科)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

*769-0103 高松市国分寺町福家3005 高松市立国分寺南部小学校

**760-8522 高松市幸町1-1 香川大学大学院教育学研究科

Several Issues on the Instrumental Activities of Elementary School Music : Playing Keyboard Harmonica and Recorder

Yuka Aoyama, Yujiro Doi* and Kana Sumida**

Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522

**Kokubunji nanbu Elementary school, 3005 Fuke, Kokubunji-cho, Takamatsu 769-0103*

***Graduate School of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522*

要 旨 本論文では、リコーダーの学習を始める前の小学生と大学生を対象とした調査を通して、リコーダーの学習意欲の維持と基礎奏法の定着の2点の問題点について考察する。児童は鍵盤ハーモニカが嫌いでも音楽科が好きであれば、リコーダー学習が好きで意欲的に取り組める可能性が充分にあることがわかった。また基礎奏法では、鍵盤ハーモニカとリコーダー奏法の連続性を考慮した指導プログラムの構築が今後の課題となった。

キーワード 音楽科 リコーダー 鍵盤ハーモニカ 器楽学習

1. 本研究の目的

小学校における音楽教育の目的は「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」ことであり、表現領域の中の器楽に関する部分も、当然、その目標に沿ったものとなっている。第1学年及び第2学年では「基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする」、第3学年及び第4学年では「基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取

るようにする」ことが目標となる。また、現行の学習指導要領の音楽科改訂の基本方針として「音楽と生活とのかかわりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむことなどを重視する」¹ことも示されている。基礎的な表現能力を培うことを通して体験した音楽表現の楽しさが、生涯にわたって音楽文化に親しむ態度につながることを目指すものといえよう。

器楽学習で取り上げる楽器について、学習指導要領では「第1学年及び第2学年で取り上げる身近な楽器は、様々な打楽器、オルガン、

ハーモニカなどの中から児童の実態を考慮して選択すること」,「第3学年および第4学年で取り上げる旋律楽器は,既習の楽器を含めて,リコーダーや鍵盤楽器などの中から学校や児童の実態を考慮して選択すること」²となっており,鍵盤ハーモニカ,リコーダーともに必ず取り扱わなければならないわけではないが,実際には多くの学校でこの二つの楽器が取り上げられている。音楽科内容の授業で教育学部の学生にリコーダー指導をすると,リコーダー本来の音を知らない(聴いた体験がない),美しい音の出し方を知らない(実際に出せるはずの音色が出せていない),正しい奏法で吹けていないという実態に遭遇する。他大学でも同じような例がみられるようである³。

また,現職教諭からのコメントにも「3年生で初めて学習するリコーダーは,学習前の意欲が高いにもかかわらず,いざ始まると,いつの間にか差が開く点が課題です」,「タンギングの仕方も,難しい子(苦手な子)には,なかなか集中させることが難しい」,「高学年になるのにリコーダーの音がどうしてもそろわない」などリコーダー演奏や指導の難しさを指摘する声も多い⁴。そこには,〈Ⅰ〉始めの学習意欲をどう維持させていくか,と〈Ⅱ〉基礎奏法をどう定着させていくか,の二点に課題があることがうかがえる。基礎奏法に関して具体的には,タンギングに関する課題が大きいようである。

そこでこれらの問題について,その実態を明らかにするための調査を行う必要がある。まず,〈Ⅰ〉については,リコーダー学習前に高い関心があることは予想されるが,実際にはどのようなものであるかを具体的に調べなければならない。その上で,高い関心があるとすれば,それが学習を通じて維持されているかどうかも調査の課題となる(この点を明らかにするためには,一定時間経過後に同じ小学生を対象とした調査が必要であるが,ここでは当面,大学生の意識を通して見ることにする)。また,もし,高い関心が維持されていない(問題がある)とすれば,どのようにそれを解決すればよいのかについて,大学生に対する調査結果に手掛かりの一

つを求め考察する⁵。次に,〈Ⅱ〉の奏法に関しては,小学生,大学生の意識調査の結果に基づいて,その問題点をより明らかにする。

さらに,より具体的な問題として次の二点について論じる。まず,(i)〈Ⅱ〉の問題点に深く関係する問題として,リコーダーに先行して学習することの多い鍵盤ハーモニカとの関わりについてである。鍵盤ハーモニカもリコーダー同様,必修の楽器ではないが,実際には多くの学校で低学年の身近な楽器として扱われている。リコーダー奏法の課題となっているタンギング,ブレージング(息使い),フィンガリングの3点のうち,鍵盤ハーモニカの演奏では前者2点が共通している。リコーダー学習を始める前の鍵盤ハーモニカの奏法指導について教科書,指導書の記述を検討するとともに,調査結果をもとに考察する。また,(ii)リコーダーの指導で考えられるその他の問題点として,読譜力についても調査に含む。器楽演奏と読譜は密接な関係にあり,器楽演奏には読譜力が必要とされているため,教科書でもリコーダー学習の前に五線譜の指導が配置されている。リコーダー学習とその指導を円滑にするにはどうすればよいかを考えるため,読譜力に関する大学生の実態調査を行う。

また,そもそも,大学生にとって生活の中で音楽(特に器楽)がどのような位置を占めているかを調べる必要もあるので,これについても調査を行う。

2. 調査

2.1 調査対象

上に述べた問題についてより具体的に知るために,小学生および大学生を対象としたアンケート調査を行った。平成21年度と22年度に,香川大学の学生245人と高松市内の公立小学校および香川大学教育学部附属高松小学校のリコーダー学習を始める前の児童348人(2年生の最後と3年生でリコーダーを学習する前)を対象に実施した。鍵盤ハーモニカ,リコーダーともに必修の楽器ではないが,今回調査を実施

した児童348人全員が鍵盤ハーモニカを学習している。また大学生も全員が、小学校で鍵盤ハーモニカとリコーダーを学習している。

2.2 調査項目

アンケート項目は以下の通りである。

A. 小学生

[1] 「音楽」の授業は好きですか。

1.大好き 2.好き 3.ふつう 4.嫌い 5.大嫌い

[2] 鍵盤ハーモニカが好きですか。

1.大好き 2.好き 3.ふつう 4.嫌い 5.大嫌い

[3] リコーダーを楽しみにしていますか。

1.とても楽しみにしている
2.楽しみにしている 3.ふつう
4.楽しみにしていない

[4] リコーダーで吹いてみたい曲を教えてください。(自由記述)

[5] リコーダーを吹いてみたことがありますか。

1.ある 2.ない

B. 大学生

[1] 「音楽」の授業は好きでしたか。

1.大好き 2.好き 3.ふつう 4.嫌い 5.大嫌い

[2] 小学生の時、鍵盤ハーモニカが好きでしたか。

1.大好き 2.好き 3.ふつう 4.嫌い 5.大嫌い

[3] 小学生の時、リコーダーが好きでしたか。

1.大好き 2.好き 3.ふつう 4.嫌い 5.大嫌い

[4] 小学校でリコーダーを学習するとき、どのような工夫をすると、子どもたちがリコーダーをもっと好きになれると思うか、あなたの意見を教えてください。(自由記述)

[5] 「音楽」の授業で好きだったことを教えてください。

1.みんなで歌を歌う 2.楽器の演奏をする
3.鑑賞 4.理論を学ぶ
5.作曲する・作品を作る
6.そのほか 7.なし

[6] 五線譜を読むことができますか。

1.よく読める 2.読める 3.あまり読めない
4.読めない

[7] 今、楽器を定期的に演奏していますか。

(ア) 1.定期的に行っている 2.時々している
3.たまに行っている 4.していない

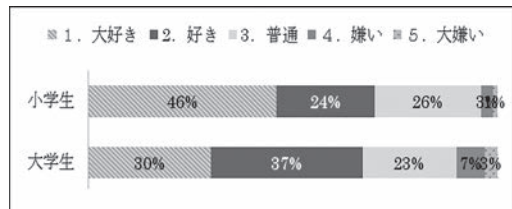
(イ) 1.2.3.を選択した人は、楽器名を教えてください。(複数回答可)

3. 調査結果

3.1 (音楽科について)⁶

A-[1] (小学生) 「音楽」の授業は好きですか。

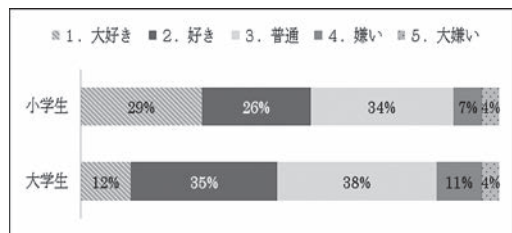
B-[1] (大学生) 「音楽」の授業は好きでしたか。



3.2 (鍵盤ハーモニカについて)

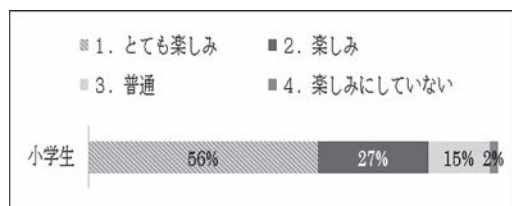
A-[2] (小学生) 鍵盤ハーモニカは好きですか。

B-[2] (大学生) 鍵盤ハーモニカは好きでしたか。

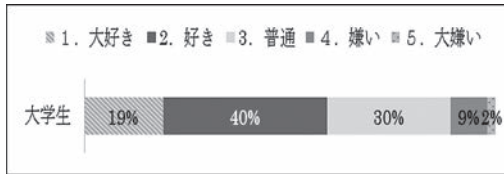


3.3 (リコーダーについて)

A-[3] (小学生) リコーダーを楽しみにしていますか。



B-[3] (大学生) 小学生の時、リコーダーが好きでしたか。



3. 4 (小学生が吹いてみたい曲について)

A-[4] (小学生) リコーダーで吹いてみたい曲を教えてください。

順位	曲名	総計 (人)
1	小さな世界	39
2	キセキ	31
3	音楽のおくりもの	18
3	こぎつね	18
5	手紙	16
6	となりのトトロ	15
7	崖の上のポニョ	14
8	大きな古時計	8
9	イナズマイレブン	7
10	かえるの合唱	6

そのほか

- 小学生は学校で取り組んだ曲を、リコーダーで吹いてみたいと思っている。

小学生が吹いてみたい曲の第1位「小さな世界」、第2位GreeeeNの「キセキ」⁷は全校合唱などで歌った曲目である。また第3位「音楽のおくりもの」、第4位「こぎつね」、第10位「かえるの合唱」の3曲は、いずれも小学校2年生の教科書に掲載されており、教材として学習している。

3. 5 (小学生がリコーダーが好きになる工夫について)

B-[4] (大学生) 小学校でリコーダーを学習するとき、どのような工夫をすると子どもたちがリコーダーをもっと好きになれると思うか、あなたの意見を教えてください。(自由記述)

- 子どもが興味のある楽曲を扱う
- 人気のある曲を吹かせる
- 好きな曲をみんなで選んでもらう
- まずは楽譜を読めるようにする

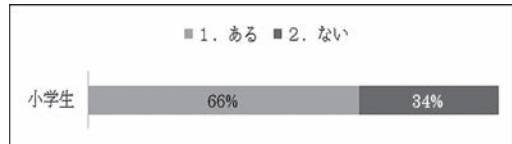
- できる子、できない子の差ができすぎないようにする
- タンギングから教える
- 曲が吹ける楽しさを教える
- ゆっくり教える
- 合奏する楽しさを教える

そのほか

大学生はリコーダーの指導で小学生の関心の高い曲を扱うことが、小学生がリコーダーをもっと好きになる一番の工夫だと考えている。

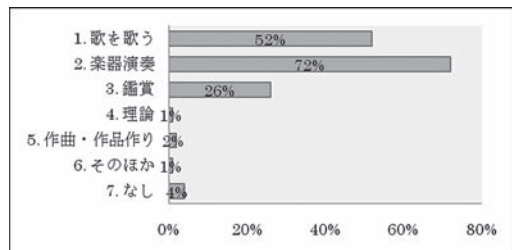
3. 6 (リコーダー学習が始まる前のリコーダー体験について)

A-[5] (小学生) リコーダーを吹いてみたことがありますか。



3. 7 (大学生が音楽科の学習内容で好きだったことについて)

B-[5] (大学生) 「音楽」の授業で好きだったことを教えてください。(複数回答)



3. 8. 1 (音楽科と鍵盤ハーモニカ、音楽科とリコーダーとの相関関係について)

3. 8. 2 (鍵盤ハーモニカとリコーダーとの相関関係について)

小学生

	音楽が好き/嫌い	鍵盤ハーモニカが好き/嫌い
音楽科が好き/嫌い	-	.38**
鍵盤ハーモニカが好き/嫌い		-

** $p < .01$

大学生

	音楽が 好き／嫌い	鍵盤ハーモニカ が好き／嫌い	リコーダーが 好き／嫌い
音楽科が 好き／嫌い	-	.46**	.53*
鍵盤ハーモ ニカが好き ／嫌い		-	.60**
リコーダーが 好き／嫌い			-

** $p < .01$

- ・小学生は音楽科が好きであればあるほど、鍵盤ハーモニカも好きである。
- ・大学生は音楽科が好きであればあるほど、鍵盤ハーモニカもリコーダーも好きだった。
- ・大学生の鍵盤ハーモニカとリコーダーの間には、相関関係がある。一方の楽器が好きほど、他方の楽器が好きである。ただし、データから直接は判断できないが学習の順序から考えると鍵盤ハーモニカが好きの人ほどリコーダーが好きと予測される。

3.8.3 (音楽科が好きな程度に対する鍵盤ハーモニカの好きな程度の比較)

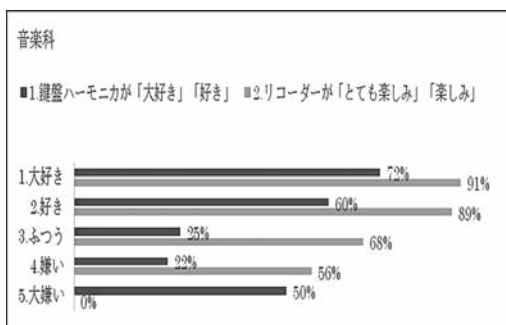
	小学生	大学生
音楽科が好きな程度より、鍵盤ハーモニカをより好きと選択	15%	14%
音楽科が好きな程度と、鍵盤ハーモニカが好きな程度が同じを選択	41%	43%
音楽科の好きな程度より、鍵盤ハーモニカをより嫌いを選択	42%	43%

3.8.4 (音楽科が好きな程度に対するリコーダーの好きな程度の比較)⁸

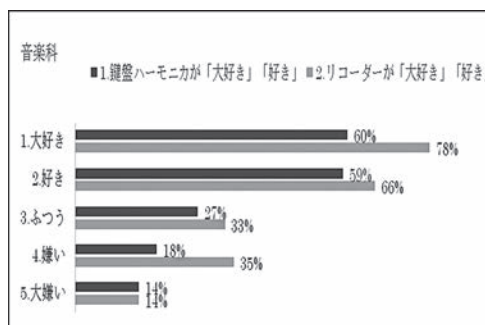
	小学生	大学生
音楽科が好きな程度より、リコーダーをもっと楽しみにしている(好き)を選択	35%	18%
音楽科が好きな程度と同じくらい楽しみにしている(好き)を選択	51%	49%
教科音楽の程度より、リコーダーをより楽しみにしていない(嫌い)を選択	14%	34%

3.8.5 (音楽科の好きな程度別にみる、鍵盤ハーモニカとリコーダーの「大好き」「好き」の割合の比較)

小学生



大学生



3. 8. 6 (音楽科が「大嫌い」「嫌い」を選択し、
鍵盤ハーモニカが「大嫌い」「嫌い」な場合)
(○印は1名を表す)

(i) 小学生4名のリコーダーとの関係

鍵ハモ 音楽科	大嫌い	嫌い	リコーダー
大嫌い		○	4.楽しみにしていない
嫌い		○	1.とても楽しみ
	○		3.ふつう
		○	4.楽しみにしていない

(ii) 大学生12名のリコーダーとの関係

鍵ハモ 音楽科	大嫌い	嫌い	リコーダー
大嫌い	○		1.大好き
	○○○○○		4.嫌い
嫌い	○	○○○○○○○	4.嫌い

3. 8. 7 (音楽科が「大好き」「好き」を選択し、
鍵盤ハーモニカが「大嫌い」「嫌い」な場合)

(i) 小学生14名のリコーダーとの関係

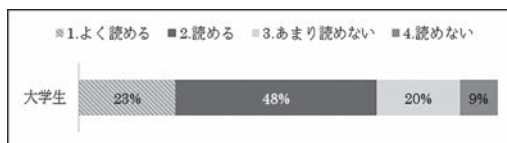
鍵ハモ 音楽科	大嫌い	嫌い	リコーダー
大好き	○	○○○○○○○	1.とても楽しみ
	○	○	3.ふつう
好き	○○○○○	○	1.とても楽しみ
		○	3.ふつう

(ii) 大学生11名のリコーダーとの関係

鍵ハモ 音楽科	大嫌い	嫌い	リコーダー
大好き		○○	2.好き
		○○	3.ふつう
		○	4.嫌い
好き	○	○	1.大好き
		○	2.好き
		○○	3.ふつう
		○	4.嫌い

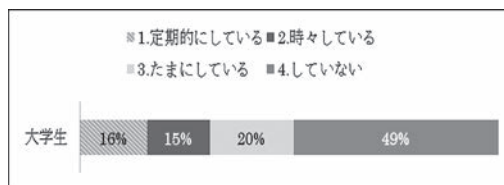
3. 9 (読譜について)

B-[6] 五線譜を読むことができますか。



3. 10 (現在の楽器との関わりについて)

B-[6] (ア) 今、楽器を定期的に演奏していますか。

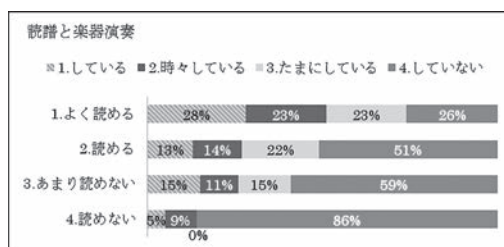


B-[7] (イ) 1.2.3.を選択した人は、楽器名を教えてください。(複数回答可)

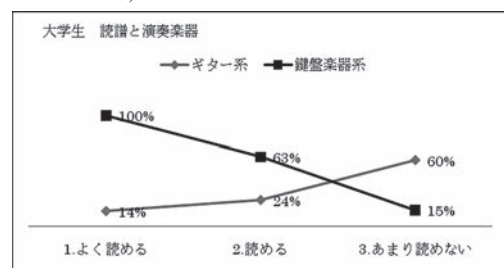
楽器名	人数(人)
鍵盤楽器系 (ピアノ・エレクトーン・シンセサイザー含む)	68
ギター系 (ウクレレ, マンドリン, エレキベース含む)	33
ドラム	5
サクソ	3
クラリネット	2
トランペット	2
トロンボーン	2
フルート	2
ホルン	2

* そのほか 箏, 尺八, ファゴット, ユーフォonium, 横笛 各1人

3. 11. 1 (読譜ができる程度と何か楽器を演奏しているかとの関係)



3. 11. 2 (大学生の読譜と演奏楽器の種類について)



4. 考察

問題点〈Ⅰ〉学習意欲をどう維持させていくか

リコーダー学習前の小学生は、83%が「とても楽しみ」「楽しみ」を選択しており、「楽しみにしていない」を選択したのはわずか2%であった。共同購入したリコーダーを学習前にふいてみた小学生は7割にのぼり、リコーダー学習をととても楽しみにしている様子がうかがえる。また、音楽科が好きな程度よりも、リコーダーをより楽しみにしていると感じる小学生が全体の35%で、大学生の「より好きだった」割合のおよそ2倍である。また、音楽科が好きな程度との比較でより楽しみにしていないと回答した小学生は14%で、リコーダーが「より嫌いだった」と回答した大学生(34%)の割合の半数以下である。これらのことから、小学生のリコーダーへの関心の高さがうかがえる。

一方、大学生が小学校の音楽科の学習内容をふり返った時、最も好きだったのは「楽器演奏」で7割を占める。そのうちリコーダーに関しては全体の6割が「大好き」「好き」を選択し、「嫌い」「大嫌い」を1割が選択している。小学生の学習前の意欲と単純に比較はできないものの、リコーダーに関していえば、小学生の学習前の意欲の高さに比べると、リコーダーを好きだったと感じる割合は7割に減じている結果になる。当初の意欲からみるとやや低下するものの、全体をみると「大好き」「好き」を選択した大学生が予想以上に多く、リコーダー学習が肯定的に受け入れられている様子がうかがえる。それでは、リコーダーの学習意欲の高さをさらに生かす方法を教員免許状取得を目指す大学生集団に尋ねると、自由記述にも関わらず「小学生の関心の高い曲を扱うことが一番の工夫である」と6割が回答している。また小学生も、学校で取り組んだお気に入りの曲をリコーダーで演奏してみたいと多くが思っているので、初期の段階から児童の関心の高い曲をアレンジなどの工夫によって指導に取り入れることは、学習意欲を維持する上でより高い効果があると期待できる。

次に、音楽科との関わりからみると、小学生と大学生の中で、音楽科、鍵盤ハーモニカともに「嫌い」「大嫌い」を選択した人は、リコーダーが「嫌い」または、「楽しみにしていない」と選択することが多い。一方、音楽科が「大好き」「好き」を選択した者は、鍵盤ハーモニカが「嫌い」「大嫌い」でも、リコーダーが「好き」や、「楽しみにしている」を選択している。つまり、たとえ1年生で始めた鍵盤ハーモニカが嫌いになった児童であっても、音楽科が好きであればリコーダー学習を始める前のリコーダー学習への意欲は高いし、リコーダーを好きになり意欲的に取り組める可能性が充分にあるといえる⁹。

問題点〈Ⅱ〉基礎奏法をどう定着させていくか

—小学生、大学生の意識調査の結果から—
まず、リコーダー学習を始める前に低学年で身近な楽器として接する鍵盤ハーモニカについてだが、小学生の15%(大学生は14%)が音楽科が好きな程度より鍵盤ハーモニカをより好きだと感じるのに対し、より嫌いだと感じる小学生が42%(大学生は43%)いる。またその中で、小学生の16%(56名)が2段階以上嫌いと感じ、大学生の16%(38名)も、2段階以上嫌いだったを選択している。この傾向はリコーダーには見られないものである。鍵盤ハーモニカが嫌いと感じる度合いが高い理由として、筆者らは鍵盤ハーモニカの奏法上の問題と鍵盤ハーモニカの位置づけやそれに伴う指導の不確定さに原因があるのではないかと考えている。

まず、奏法についていえば、リコーダー奏法の課題となっているタンギング、ブレージング(息使い)、フィンガリングの3点のうち、鍵盤ハーモニカの演奏でも前者2点が要求される。タンギング、ブレージングは鍵盤ハーモニカの演奏にも不可欠な要素であるため、その学習においてもそれらの指導を避けることはできない。実際、指導書や教科書にも、それら奏法の指導に関して言及されている。例えば、教育芸術社で初めて鍵盤ハーモニカが扱われる教材「どんぐりさんのおうち」の学習活動には、「無理のない息できれいな音をだせるように、吹き

方を工夫する」との指示があり、それに対応する「指導上の手だて」¹⁰として「タンギングをするときとしないときの音色に気づいて奏法を工夫するようにする」とある。また指導資料の中にも「鍵盤ハーモニカならば鍵盤を押さえたまま、息を使って3回に分けて吹くようにします。・・・中略・・・リコーダーなど他の吹奏楽器と同じように、旋律に合わせてタンギングをしながら演奏するほうが、表現も豊かなものになります」¹¹とある。教育出版の場合についても、1年生のオプション部分（各地域・学校実態に即して適宜取り扱ってほしいの〈題材〉）「こんにちは けんばんハーモニカ」の中で初めて鍵盤ハーモニカが扱われ、「けんばんをおさえたままとうとうとうとふいてみよう」¹²と教科書の中にタンギング奏法が具体的に記され、教材の取り扱いでも「リコーダーの導入にもつながるタンギング奏法については、確実に身につくようにていねいに指導しなければなりません」「タンギング（舌で息を区切る）を使って同じ音を出せるようにする」¹³と記されている。その指導書の求めている評価規準にも、「音楽的な感受や表現の工夫」として「音の高低・強弱に気づき、息の強さを工夫していろいろな音を作り出している」が、また「表現の技能」として「・・・息づかいに気をつけてタンギング奏をしている」が掲げられている。

このようにいずれの教科書でも1年生の鍵盤ハーモニカの演奏では、「きれいな音を工夫する」ためには、息の強さの工夫（ブレイジング）やタンギングに気をつけることを求めている。その一方で、鍵盤ハーモニカの位置づけは、各地域・学校実態に即して適宜扱うオプション部分であり、その指導については指導書で「無理のない活動」や「1年生で鍵盤ハーモニカを扱う場合、運指・タンギングなどの指導は各校の実態に応じてそれぞれの裁量にゆだねる」¹⁴とされている。一方で評価規準からみると、奏法をしっかりと指導することが示されており、矛盾がないわけではない。特に鍵盤ハーモニカは必修の楽器ではないという不安定な位置づけながら、多くの学校の1年生で身近な楽器として導

入されている。しかしブレイジング、タンギングという二つの課題の上に、フィンガリングとして運指（指またぎ、指くぐり、指替え）も加わることを考えると、鍵盤ハーモニカは2年生で学習するオルガンや、3年生のリコーダーよりある面では難易度が高い楽器であるということもできる。さらに、問題になるのは鍵盤ハーモニカと、音楽の授業で伴奏に使われる機会の多いピアノとは音色をきれいに合わせるのが難しいという点である。

幾人かの児童に「鍵盤ハーモニカとリコーダーで似ているところはあるか」ときいてみたところ、「鍵盤ハーモニカとリコーダーは、まったく違う楽器」¹⁵と答えていたことから、多くの児童にとって二つの楽器の共通性は気づかれにくいということも考えられる。このように、鍵盤ハーモニカの楽器自体がもつ特性、音楽科の中での位置づけの不安定さが、指導の難しさや不安定さに結びついて、一層、演奏を難しいものにしてしているのではないだろうか。低学年から鍵盤ハーモニカを継続学習したことで「3年生では『タンギング』『息の強さ』は、全児童に指導する必要がなかった」（平田 2009）との実践研究での記述もあるので、低学年で鍵盤ハーモニカを使用し、3年生でリコーダーを学習する場合には、2つの楽器の連続性を考慮した指導プログラムをいかに構築していくかも、基礎奏法の定着に向けた課題となる。

次に、より具体的な問題として読譜力と楽器演奏に関する大学生の実態についてである。まず、読譜については、これまでも「子どもたちが主体的に音楽活動を進めていくためには、楽譜を階名で読み取って歌ったり楽器を演奏したりする視唱や視奏の能力がどうしても必要になります」¹⁶や、「やはり、楽譜が読めたり、書けたりした方が、音楽を楽しむ上では、便利であることは確かです」¹⁷とリコーダー学習を円滑にすすめるために読譜能力の必要性が指摘されてきた。上記で見たいずれの教科書でも3年生のリコーダー学習の前に五線譜を読むための教材が配置されている。

今回の読譜力の調査は自己申告であるため、客観的にみた読譜力と必ずしも一致するとはいえないが、大学生の7割が「よく読める」「読める」を選択している。また、読譜力の程度と楽器演奏の関係では、「よく読める」から「読める」へと読譜力が低下するにしたがって演奏する者が減少するものの、「あまり読めない」を選択したのもでも4割が「している」「時々している」「たまにしている」を選択している。予想以上に高い割合で生活の中で楽器演奏されていることがわかる。大学生全体の半数が現在も楽器演奏をしており、これは音楽科が「大好き」だった7割、「好き」だった5割にあたる。また、予想されながらも興味深い結果として、五線譜が「読める」者と「読めない」者では、演奏している楽器が明らかに異なる結果が出た。「よく読める」を選択した者は100%がピアノを、「読める」を選択した者の63%がピアノあるいは、そのほかの鍵盤楽器（エレクトーン、シンセサイザー等）を演奏すると回答している。「あまり読めない」を選択した者の60%がギター系（アコースティックギター、エレキギター、ギター、マンドリン等）を、15%が鍵盤楽器系（ピアノ、エレクトーン、シンセサイザー等）を演奏すると回答している。

大学生にとって、音楽科の学習での器楽学習が生活を楽しむ中でどのようなつながりがあるのか、またその中で読譜はどのような役割をもつのかについて、今後さらに調査を行いたい。

リコーダーは児童が初めて手にする、自らの感性と結びつけた多彩な表現が可能な楽器である。「基礎的・基本的な知識・技能の習得」¹⁸をするとともに、「生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育成する」¹⁹ことができる可能性を十分に持っている。鍵盤ハーモニカの使用のありかたや指導、リコーダーの奏法との指導の継続性などについても、今後さらに検討する必要があると考えられる。

謝辞

本研究を進めるにあたり、高松市立亀阜小学校の太田裕子先生、香川大学附属高松小学校の

和中雅子先生、香川大学教育学部の岡田知也先生をはじめ多くの方にご協力いただいた。また香川大学教育学部の大久保智生先生、江村早紀さんには統計に関して貴重な示唆をいただいた。心より感謝申し上げる。

注

- 1 小学校学習指導要領解説〔音楽編〕平成20年6月、第1章 総説「音楽科改訂の趣旨（i）改善の基本方針」、p.4.
- 2 小学校学習指導要領〔音楽科〕平成20年、第3,2（4）イ、ウ.
- 3 「誰もがすぐに音を出せるメリットはあるものの、それがゆえ、たいていの学生は指導する教員の知識と経験不足の連鎖によって、演奏方法の基本をはじめ好ましい音作りに必要な技術などを学んでこなかった」（小西・根木2011, p.19.）
- 4 平成22年度教員免許更新講習でのアンケート調査の自由記述による。
- 5 教員免許状の取得を希望する学生たちの集団（教育学部、工学部、法学部、農学部、経済学部、医学部の学生）を対象とする。
- 6 アンケートではわかりやすさを考慮して「『音楽』の授業」と記したが、以下「音楽科」と記す。
- 7 平成21-22年度を通して人気のある楽曲。
- 8 音楽科と鍵盤ハーモニカともに「ふつう」と選択した場合は同程度とする。音楽科を「ふつう」と選択した場合でみると、鍵盤ハーモニカで「好き」を選択したならばより好きと判定し、鍵盤ハーモニカで「嫌い」を選択した場合は、より嫌いと判定する。また「大嫌い」を選択した場合には、2段階嫌いとして判定する。
- 9 ただし、鍵盤ハーモニカについては小学生も大学生も音楽科が好きであればあるほど好きであるということはいえる。また、大学生は音楽科が好きであればあるほど、鍵盤ハーモニカとリコーダーが好きであるという相関関係があることから、音楽科を好きになることが鍵盤ハーモニカやリコーダーを好きになることにつながるという。
- 10 『小学生のおんがく1 指導書 研究編』教育芸術社、p.70.
- 11 同上、p.78.

- 12 教科書『小学音楽 おんがくのおくりもの 1』教育出版, p.14.
- 13 『小学音楽 音楽のおくりもの 1 教師用指導書 研究編』教育出版, p.38.
- 14 『小学生のおんがく1 指導書 研究編』〔低学年の内容の特長⑤ 鍵盤楽器の扱い〕教育芸術社, p.9.
- 15 小学校5年生(調査実施校)の児童, 数人への質問に対する回答による。
- 16 『小学生の音楽3 指導書 研究編』教育芸術社, p.23.
- 17 『小学音楽 音楽のおくりもの 3 教師用指導書 研究編』教育出版, p.32.
- 18 小学校学習指導要領解説〔音楽編〕平成20年6月, 第1章 総説「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」の中央教育審議会の答申③
- 19 同上, 2. 「音楽科改訂の趣旨(i) 改善の基本方針」, p.4.
- (2009).
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2009/06/16/1234931_007.pdf
- 『小学音楽 音楽のおくりもの1～6 教師用指導書 実践編・研究編』平成17年度版, 教育出版.
- 『小学生の音楽 1～6 指導書 実践編・研究編・伴奏編』平成17年度版, 教育芸術社.

参考文献

- 平田千秋(2009)「譜能力と楽器演奏技能向上との関連性——鍵盤ハーモニカ並びに笛を中心に(特集〈読譜〉にどう向き合うか——義務教育課程9年間を見直す中で)」『音楽教育実践ジャーナル 7(1)』pp.104-112, 日本音楽教育学会.
- 小西潤子・根木真理子(2011)「音楽アウトリーチ研究会活動について—継承のシステム化と今後の発展に向けて—」『多角的社会連携による自己発見教育の推進事業報告書 技を媒介とした学びに熱中する子どもの育成プログラム』pp.19-24, 静岡大学教育学部.
- 池田輝樹(2008)『初歩からの鍵盤ハーモニカ教則本』ドレミ楽譜出版社.
- 楠司郎(2000)『ハーモニカを吹こう』ヤマハミュージックメディア.
- 初等科音楽教育研究会(2009)『最新 初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用』音楽之友社.
- 文部科学省・新しい学習指導要領(2008).
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/newcs/youryou/syo/index.htm
- 文部科学省・小学校学習指導要領解説〔音楽編〕